

富士大生 学術講演会に参加 学生フォーラムで活発に意見発表

11月23日～25日、秋田県立大学において日本福祉工学会第11回総会・学術講演会が開催された。本学から小山田学長をはじめ教員10名学生16名が、研究発表、学生フォーラム、交流会、視察研修会などに参加した。石田豊・高橋榮幸ゼミ2クラスは学外授業として出席し研修を深めた。



総会風景



近代建築の会場 秋田県立大学 (秋田県由利本荘市)



■ 「日本福祉工学会秋田大会学生フォーラム」 会場：秋田県立岩城少年自然の家

富士大学、秋田県立大学、中京大学の学生約40名がテーマ「学生と地域を結ぶ福祉活動」について活発なディスカッションを展開した。



● プログラム 1 ディスカッション

テーマ「学生と地域を結ぶ福祉活動～学生の視点から～」

ディスカッションは、5つのグループに分かれて、学生の視点から地域の福祉活動の実態や活動の充実を図る工夫などについて積極的に意見交換が行われた。

清水みゆきさん（富士大学4年金子ゼミ、学生会員）等は、「富士大学の福祉関連科目やボランティア実習などで、地域に出かけて福祉分野のボランティア活動を経験している。このような体験は計画的にできるが、日常的に身の周りにある小さな福祉的ニーズに対応していくことこそ大事である。」と、一人一人の福祉に対する気持ちの高まりについて指摘し、「福祉活動とはふれあうこと。中学校や高等学校では強制的に活動を経験してきたが、ふれあいは心と心の通い合いがなければいけない。このようなふれあいを持つには、学生自身が活動の機会をつくっていかなければならない。」と行動力の必要を訴えた。



● プログラム 2 講義 「障害者に優しいまちづくり」

講師 正会員 富士大学 高橋榮幸教授

講義を受けた福田稔（富士大1年石田ゼミ、学生会員）は、「ゼミ論文でユニバーサルデザインについて研究している。講義の内容は、研究のストライクゾーンとも言うべきものであり、一つ一つ聞きのがすまいと思ってメモした。」と感想を話した。



■ 「日本福祉工学会学術講演会・一般講演」 会場：秋田県立大学

学術講演会に会員約140名が参加した。一般講演はオーガナイズドセッション、ジェネラルセッションで合計57件の研究発表が行われた。本学教員の研究発表に参加学生の関心が集まり、普段の授業では見られない研究者の姿にふれた学生達は、「大学での勉強の姿勢を見直す契機になった」と感想を話していた。



● 富士大学の熊谷哲孝講師、小山田隆信教授等は、福祉分野に関連付けられる「養護学校における外国語教育の現状と課題」を研究し、今大会初めて設定されたオーガナイズドセッション特別支援教育Ⅱで発表した。現行学習指導要領の基準の意義と学校現場の取り組みの現状を報告し、教育充実の方法について、CALLシステム導入の可能性を示唆し参加者の注目を浴びた。セッションには石田、高橋ゼミの学生会員等が多数出席した。



● ジェネラルセッションでは、金子賢一准教授が「眼輪筋筋電図の離散ウェーブレット交換を用いた随意性瞬目の同定に関する研究」を発表した。セッションには加藤瑛一君（金子ゼミ3年、学生会員）等が出席した。このほか、「福祉行政・福祉サービス」分野、「生体計測・生体情報」分野等のセッションにも出席し、熱心に発表を聞いた。

■ 「交流会」 会場：本荘グランドホテル



● 本学教員、学生等は交流会に参加して、フォーラムや学術講演など大会の成功を称え合い、大会実行委員会を担当した富士大学と秋田県立大学の労に感謝した。富士大学と秋田県立大学の学生間の交流も深まり、フォーラムのディスカッションの続きが始まったり、大学研究者等と挨拶を交わしたりするなど、楽しい時間を過ごし大会の名残を惜しんだ。



● 小山田学長先生を囲む学会参加者

■ 「視察研修会」 秋田県由利本荘市 齋彌酒造→赤田の大仏→天龍城



● 自家酵母で醸造する齋彌酒造。銘柄「雪の茅舎」。全国の酒造業界で初めて有機農産物加工食品工場の認定を受け、鑑評会で7連続金賞受賞の栄誉に輝く伝統の酒造法を聞く。秋田県立大学との産学連携で新しい酒を開発している。酒造の後継者が山梨大学工学部大学院で発酵工学を専攻したことが話題になり、記憶に残る見学となった。

(2007/11/30 富士大学広報室 学会随行プレス 高橋徳実 記)